ケアプランに取り組もう

特別養護老人ホーム開寿園
宮　友美
市川　誠

平成30年　開寿園ユニット葉梨開設

〇介護サービス理念

「その人らしく　暮らし続けられるように　生活を支えます」

〇ユニットケア

「自己選択・自己決定」　「生活の継続」　「自立 (律) 支援」

介護サービス理念に沿ってユニットケアを行っていきたい。

◎その人のケアプランのはず・・・実施が徹底されていないな。

ケアプラン実施についての現状

サービス内容について

- 頭に入っていないため、実施できていないことがある
- 取り組む必要のある内容について、そのままになっている
- 変更時の申し送りはできているが、実施できているのか？
- 他ユニットがどのようにサービス内容に沿った支援をしているのか見えない（分からない）

ケアプラン実施についての課題

①サービス内容の介護職員間での情報共有方法

②サービス内容に沿った支援の実施方法

③サービス内容に沿った支援の継続方法

④ユニット間の情報共有

実施方法

○各ユニットごと対象者を1名決める

○サービス内容から実施できていない内容を1項目決める

ユニットリーダー会議（話し合い）

・どうすれば介護職員が実施できるか

・ユニット間の情報共有

実　　施

・ユニット内で介護職員同士情報共有

対象入居者さんとサービス内容

- Aさん（入居後間もない。）短期目標「意向を確認してほしい」
  ・お食事等ご本人の好みを把握するよう努め、お食事はメニューを説明し、量を確認しながら盛り付けます。
- Bさん（表情が乏しく、発語も少ない。怒ることが多い。）
  短期目標「好みや好きなことをわかってほしい」
  ・ご本人の笑いを引き出すようなコミュニケーションを心がけます。
- Cさん（耳が遠い。居室にいることが多い。）
  短期目標「みなとかかわりを持ち生活をしたい」
  ・日課やタイミングでの声かけだけではなく、コミュニケーション・スキンシップをとり安心して生活を送れるよう努めます。

取組み①サービス内容の介護職員間での情報共有方法

担当者会議後

- 各ユニットで専用のファイルを作成し、新しいプランの回覧を行うようにした。
- 会議で話し合われた内容を回覧するプランに書き込んだ

タイムリーに変更点や多職種からの見地を共有できるようになった

取組み②サービス内容に沿った支援の実施方法

ユニット内で対象入居者さんの情報収集を行った
（ipadに記録をしてもらう）

- 対象入居者さんの趣味嗜好、どんな会話で意欲が引き出されたのか発言をそのまま、表情や話をした場所等記録をしてもらった

↓

- どんなことに不安や喜びを感じるのか知ることができた
- 生活歴を意識して関われた

↓

リスト化してユニット職員に周知できた
モニタリングに記載、プランに反映することができた

Aさんの「好きなもの」リスト

	好きな食べ物・飲み物等	嫌いな食べ物・飲み物等
A　様	・つけ物（キュウリのつけ物）を見て「おいしそう！」と言われた。 ・肉よりどっちかと言えば魚が好き（煮たり…焼いたり）と言われる ・得意料理は、餃子ことと言われる。煮物もよく作ったよこともも言う。 ・好ききらいは無いよ！出されたものは全部なるべく食べる様にしている！との事 ・ぽりんこ　高級なお菓子みたいと言う。 ・お茶　飲めるぐらいの温かさの時あたたかくて美味しいと言われる ・お茶と一緒にぽりんこお出しすると「わあ〜」と嬉しそうな表情される	「お酒もそれなに飲まないし、ジュースもそれなに飲まないの」と言う。 ・かに玉風あんかけを残された。「あんまり好きじゃない」と言われる。 ・おやつに抹茶のバームクーヘンがでて、「抹茶すき？」と聞くと「あんま抹茶好きじゃない」「本当のこといっちゃった」といわれる。 ワッフルを見て「これはなに味？」黒糖きなこだよというと「わぁーでもあんまりきなこは食べないね」「好きではないけどあれば食べるね」といわれる。 ・魚は好きだが「鮭のチーズ焼き」残され（煮たり焼いたりしたのは良いけどごめんなさい！おいしくなかった！」
	・お茶のおかわり（温かい）お渡しすると「私ね、お茶好きだから」「ちょうだい」と言い飲まれる ・お茶とぽりんこを見て「これおいしいね♡」と嬉しそうに食べられる。 ・手芸、細かい作業好き ・動物（犬・猫好き） ・歌が好き（おどりをやっていた）	・身だしなみ気にする（ボサボサ嫌） ・暑いのと寒いの苦手（冬はズボン下はきたい）
まとめ	・昔の人だから残したらもったいない出された物は食べる（全体的にこだわりない） ・和風・和食さっぱり系の味付けが好みっぽい。（昔から食べ慣れてる物） ・肉より魚が好き ・温かいお茶が好き（飲める位の温度）	・洋風の味付けのおかずはあまり好きじゃない様に感じた（味の濃い目の物好きじゃない様な） ・おやつも残してる事多かったが食事同様、味の濃い物は好みではなさそう。 ・飲み物はジュース・お酒はそれなに飲まない（冷たい物嫌い）

取組み③サービス内容に沿った支援の継続方法

- 担当者会議出席者からユニットのリーダーにケアプランの変更点を報告

- ユニット内での実施方法について話し合う機会を持つ

- 関連した内容についてipadへの記録を行う

- リーダーは記録をリスト化するなどまとめ、ユニット内で情報共有する

モニタリングに記載（プランに反映）

取組み④ユニット間の情報共有

- 月1回のユニットリーダー会議を活用し、

  サービス内容への取り組みについて報告を行う

取組み後　入居者さんの変化

ケアプランを意識したコミュニケーションから

- 入居者さんの好きなことや関心のあることが分かり、笑いのポイントが分かった
- 自分の気持ちを言葉や表情に出して答えることが増えた
- 職員に対して自発的な言葉が聞かれるようになった
- 自分のことを自分から話してくれるようになった

取組み後　　職員の変化

- 入居者さんのことを理解したいと思うようになった。

- ある入居者さんがお茶の時期であることをテレビで見つけると、隣の人に「私もお茶をやったんだよ」と話している姿を見て、昔やってきたことを思い出して誰かに伝えたいんだな、話が止まらないその心情的には何か不安に思うこともあるのかなどと職員同士話し合うことができるようになった

- 他職員とサービス内容について話す機会が増えた。

今後の課題

○ケアプランに沿った支援を行える仕組みづくりを多職種間でも作っていきたい。

サービス内容に沿った支援をどれだけ意識して行えているかはまだ職員間にバラつきがあり、その点でも今回の取り組みはまだ実施段階ではありますが、職員同士が同じ目線に立って入居者さんについてのケアを見直していく良いきっかけになっていると感じました。

ご清聴ありがとうございました。